

## 生産者と環境にやさしいアブラムシ防除が可能 飛ばないナミテントウ利用技術マニュアル

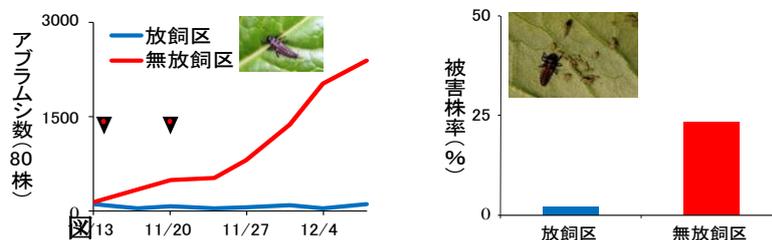
アブラムシは施設野菜の最も重要な害虫の一つで、大量に発生すると収量や品質の低下を招き、大きな被害を与えます。アブラムシに対して種々の化学農薬が開発されていますが、すぐに薬剤が効かなくなるため、たびたび農薬の種類を変える必要があります。このため、農薬に替わる防除法が強く求められていました。そこで、農研機構近畿中国四国農業研究センターでは飛行能力を欠いた「飛ばないナミテントウ」を育成し、平成 26 年からは株式会社アグリ総研より天敵製剤(商品名:「テントップ」)(写真 1)として製造・販売されました。本製剤の効果的な利用方法と使用上の留意点などを取りまとめた利用技術マニュアルが作成されましたので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 飛ばないナミテントウは、アブラムシ発生初期に 2 齢幼虫をアブラムシが発生している株上に 1 m<sup>2</sup>あたり 10~13 頭、1 週間間隔で 2 回以上放飼することで、アブラムシ類を効果的に防除できます(図 1)。
2. ナミテントウの幼虫は、容器内では長期間生存できないため、到着日中に使いきるようにします。また、ナミテントウは同じ畝の上を歩き回る傾向があるため、畝ごとに放飼します。
3. アブラムシ類の生息密度が高くなってからの放飼では、十分な効果が得られないことがありますので、気門封鎖剤などでいったんアブラムシ類の密度を低下させてから放飼します。
4. 他の病害虫防除のための殺虫剤・殺菌剤については、ナミテントウに影響の小さいものを使用します。特に、有機リン系、ピレスロイド系、ネオニコチノイド系殺虫剤は長期間(1 カ月以上)の影響が懸念されるため十分に留意する必要があります。



写真 1 「テントップ」



1 施設栽培コマツナにおける飛ばないナミテントウ 2 齢幼虫放飼によるアブラムシ防除効果(左)と被害抑制効果(右)

### ☆ 活用面での留意点

1. 「飛ばないナミテントウ利用技術マニュアル」は、次の URL で見ることができます。  
[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/files/warc\\_manual\\_tobanai\\_namitento\\_usetechnical\\_1.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/warc_manual_tobanai_namitento_usetechnical_1.pdf)
2. 詳しいことは近畿中国四国農業研究センター (TEL:084-923-4100) へお問い合わせください。  
(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)